


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.56

 . . . 目 次 . . .

第18回日本生殖看護学会学術集会中止に関するお詫びとお知らせ	1
特集 COVID-19対策！	3
周産期施設における感染対策	7
ポストコース延期のお知らせ	7
理事会報告	8
事務局からのお知らせ	8
編集後記	8



第18回日本生殖看護学会学術集会中止に関するお詫びとお知らせ

日本生殖看護学会理事長 上澤悦子

世界的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的拡大により、あらゆる地域の人々が生活・行動様式の変容をせざるを得ない厳しい状況が継続しておりました。

会員の皆様におかれましても、感染者を受け入れられ日々相当な緊張感と心身のストレスのなか感染防止対策に翻弄された医療機関の方はもちろんのこと、生殖医療施設、周産期医療施設、がん医療施設で就業されている皆様、さらに大学等の教育機関の皆様、お一人おひとりの感染防止対策へのご努力に心よりエールと感謝を申し上げます。

しかし、ようやく6月には、第一波の収束感から通常の生活にもどりつつありますが、第2波、第3波の発症も予測され、1年から2年の長期戦となることが報道されています。

そのため、既にHP上でお知らせしていますが、9月13日に大阪で開催予定しておりました第18回日本生殖看護学会学術集会の中止を、第3回Web理事会(2020.5.20)において最終決断をしました。

本学術集会長の奥島美香氏は、昨年秋から綿密な企画と計画のもと「一人ひとりの多様な価値観と選択肢の支援」をテーマに、プログラム構想も早々に完了し、HP上での一般演題の募集に入っていました。テーマが示すように、生殖看護において多様な意見を活発に交換できる学術集会を企画していたこともあり、web配信での学会開催を導入することは困難であり、真に苦渋の決断のなかで中止を決断されました。現在、学術集会長と共に企画委員一同、強い喪失感のなかにおります。

何よりも、演題投稿を予定されていた皆様、年1回の学術集会の参加を心待ちにされていた会員

の皆様にも開催できなかったことを心よりお詫び申し上げます。

今年度の学会活動は、感染予防対策を第一義に考え、皆様へはニュースレターや学会誌等、生殖看護に関連する最新の情報を冊子や紙面上で郵送させていただくことといたします。

次年度の第19回学術集会は、web 配信での学術集会となります。学術集会長は未だ決定していませんが、学会を挙げて効果的な web 配信での学術集会を模索していく所存です。

日本政府も取り組んでいる持続可能な開発目標（SDGs）である「すべての人の健康的な生活の確保・すべての女性のエンパワーメントをはかる」には、生殖の障害を支援するわれわれの学会が強く発信する力を持ち、継続することが重要です。

皆様のお力をどうぞ継続的にお願い申し上げます。

第18回日本生殖看護学会学術集会開催中止に寄せて

第18回日本生殖看護学会学術集会
学術集会長 奥島美香

私が生殖医療に初めて携わった頃は、生殖補助医療について治療の是非が、議論されていた時代でありました。そのような時を経て生殖医療はめざましい発展と進歩をとげ、社会的に認知され患者も多様な治療を選択することが可能となりました。挙児を希望する患者は、生殖医療の普及によって救われたことは事実ですが、その一方、技術の進歩によって新たな苦しみさらされている患者がいることも事実です。具体的には「次から次へと新たに提案される治療を受けなければ…」と追い詰められながらも治療を継続し、高度な治療を受けても妊娠できないことへの喪失感・絶望感に苦しむ状況があります。治療開始から患者は、周囲の価値観や情報に惑わされず自分にとってどのような生き方（治療や取り組み方）が適しているかを、多様な選択肢から導き出すことを求められます。そのためには、患者の多様な価値観を受容しながら、患者が選択した治療を理解し、適切に支援する能力を持つことが求められていると考えます。看護師は、最も患者に身近な存在であることから、患者一人ひとりの多様な価値観を理解し、患者自ら治療を選択できるように教育し支援する、重要な役割と使命があると考えます。私達はそのような考えのもと、第18回日本生殖医療看護学会学術集会においては、医療者も多様な価値観を持ち様々な選択肢について考え、模索しながら研究や臨床で活躍されている参加者の方々が学術集会の場において意見交換をできる場所にし、現場で実践できる一助になるようにとプログラムを組みました。それらは今後進化していく生殖看護に繋がると考えておりました。そのため、プログラムは膨大となり多方面にわたる講師の方々を迎える学術集会となり、多くの方々から関心・興味を示して頂きました。学術集会の準備は、プログラム冊子の送付が完了し、後は投稿演題の抄録集編集と9月13日を迎えるまでに進んでおりましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大防止を最優先とし参加者の方々の安全を第一に考え、中止という判断となりました。催行中止の判断は、やむを得ないとは思いつつも目標を失い言葉では表現出来ないほどの空虚感・挫折感にさいなまれるばかりです。しかし、この困難を乗り越えた先には必ず、多様な価値観や新たな選択肢が生まれます。今後の学術集会開催の在り方においても少なからず変化していくかと思われまふ。私にとっても、学術集会中止という経験も大きな学びとなり次なる飛躍になると信じています。また皆様とお目にかかれる日が、そう遠くない未来であると信じております。どうぞ、皆様におかれましては、この苦境を乗り越え今後のご活躍・ご健勝を祈念して申し上げます。今回開催にあたり座長・講師を引き受けて下さった講師の方々、また協賛・寄付を頂きました皆様方に深謝いたします。学術集会開催に向けてご協力・ご指導頂きました、上澤理事長・村上理事・社会医療法人生長会法人本部事務部・府中のぞみクリニックの皆様方に感謝致します。

特集 COVID-19対策！

COVID-19感染拡大防止を考慮した診療の工夫

蔵本ウイメンズクリニック
不妊症看護認定看護師
村上貴美子

令和2年4月7日から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応として緊急事態宣言が発令され、私の住んでいる福岡は特定警戒都道府県となり、街には人がほとんどいなくなりました。COVID-19は肺炎等の重篤な症例の発症頻度が相当程度高いとされ、これまでに経験のないウイルスへの不安や妊娠時期の延期も考慮した会告が出る中で、不妊治療を受けられる当院の患者様は4割減少しました。しかし、年齢的に猶予が限られている方など、不妊治療を希望する患者様の来院はありましたので、国立感染症研究所の定める新型コロナウイルス感染症に対する感染管理に基づいて感染予防に最大限の注意を払いつつ、診療を続けました。ホームページや院内に患者様向けのCOVID-19予防の注意事項（別添1）を掲示し、患者様への登録メールにも定期的に発信して予防のための注意を呼びかけました。また、スタッフは、通勤ラッシュの際にCOVID-19に感染しないよう、緊急事態宣言中は全スタッフ時短勤務とし通院ラッシュを避けられるよう15～16時の退勤時間としました。院内のスタッフは、標準予防策（マスク・手指衛生・換気等）に加え、COVID-19の消毒に有効な擦式アルコール手指消毒を適切なタイミングで実施するとともに、ウイルスを含む飛沫が目・鼻・口に付着するのを防ぐためビニールシートやフェイスシールド等で飛沫予防策を行いました。特に1メートル以内で15分以上会話をする必要のある診察室や問診室、説明室にはビニールシートを張りました。採血も患者との距離が近いので同様に行っています（図1・2・3）。使用した防護具は環境を汚染しないように留意しながら外し、手指衛生の前に目や顔を触らないようにすることや、医療機器や待合室の椅子、ドアノブ、エレベーターのボタン等はこまめに消毒することを心がけました。また、医療現場だけでなく、スタッフルームや更衣室、事務室等でも密を避け、喚起を積極的に行っています。アルコール消毒液の不足に関しては、経済産業省が界面活性剤・次亜塩素水・第4級アンモニウム塩もコロナに有効な可能性のある消毒として選定されているので、アルコールだけに頼らず、用途に合わせて使用するとともにマスクやキャップの不足に対しても中性洗剤を少し入れた水でソフトに洗い、使い捨てでも数回洗って使用したりしています。この状況は長くて2～3年続く可能性があるとも言われています。数か月前の平和な日々から一変したこの不安な状況の中でも、何とか乗り越えて、また学会員の皆様と元気で会えるよう頑張っていきたいと思えます。



図1



図2



図3

別添1

新型コロナウイルス感染症について 患者様へお願い



1. 来院される前にご自宅で必ず体温を測り、息苦しさや強いだるさ、高熱などの強い症状のいずれかがある場合や軽い風邪症状（発熱、咳など）が続く場合は直接来院せず、TELで連絡してください。
2. 来院時には必ずマスクの着用をお願いします。手縫いのマスクでも構いません。
3. 来院されたら、十分な手洗いまたは手指消毒をお願いします。

4. 感染予防の観点から、ご主人の検査や治療日以外は、奥様お一人でご来院ください。
5. お子様やご両親様などの同伴もご遠慮ください。キッズルームも当分の間、閉鎖させていただきます。
6. メンズルームは通院時間が3時間以上かかるやむを得ないご主人にのみお使いいただくことは可能ですが、それ以外の場合はメンズルームは当面、ご利用いただけません。
7. 待合室では、他の患者様とできるだけ距離を開けるよう心掛けてください。
8. 内診室のバスタオルは一時中止いたします。ご自身でタオルを持参されるか、スカートなどの着用により対応をお願いいたします。採卵や胚移植、小手術の方は、安静の間、ご自身の枕元と掛布の首回りに利用するタオル2枚をご持参ください。
9. 胚移植後のヒーリングルームの利用も中止します。
10. 車で来院されている患者様は、院内で待たずに、車中で待たれても構いませんので、スタッフにお申し出ください。
また、予定来院時間を大幅に早く来院されることも避けてください。
11. 治療中は、人混みを避け、十分な栄養と睡眠をとり、日頃のこまめな手洗いやうがいを含め健康管理に気を付けてください。

医療法人 蔵本ウイメンズクリニック

COVID-19感染拡大防止のための当院の工夫（1）

医療法人三慧会 I V F大阪クリニック
不妊症看護認定看護師
小松原千暁
2020.5.13現在

当院でも新型コロナウイルス感染症予防に最大限努めながら、診療を継続しております。

患者様も不要不急ではなく必要早急と考え、感染リスクがある中で通院して下さっているの、スタッフ一丸となって患者様の不安を軽減できるように丁寧な対応を心がけています。

当院の方針は、4月17日時点でHPやクリニック内へ掲示し周知しております。

現在は、クリニックの入り口で来院患者様全員の検温を行い、37.0以上の方や風邪症状がある方は診療をお断りしております。微熱でお帰り頂いた方は累計で4名程いましたが、状況を説明してお帰り頂きました。今までのところ、OPUやETが中止になった方はいませんでした。

クリニック入り口、各ロビーに手指消毒剤を設置し、利用の徹底を促す。来院患者様は基本的には奥様のみとし、時にはFace TimeやLineのビデオ通話を使用しています。

スタッフは毎日朝晩の検温、風邪症状の有無の問診など実施し、症状があれば自宅待機としていますが、現在までにコロナ様の症状のスタッフは出ておりません。

マスクと防護眼鏡またはフェイスシールドを使用し患者毎の手指消毒をする。看護師は個室対応だが、前後の扉は開放するとともに空調を強にして換気し、その前の椅子は会話が聞こえるのため、使用不可とする。

また、患者毎に使用後、机や椅子の消毒を行う。



OPU や処置後の搬送時のタオルケットは、内診時の使い捨てスカートを使用し使いまわしをしないようにしています。シーツ類は使用后、毎回クリーニングに出し、採卵室やリカバリールームは、患者毎に消毒しております。現在のところ、枕もとのタオルなどの持参はしていただいていないので検討します。

薬処方のみ希望の場合は、自費診療であれば郵送を許可しています。

クリニック内での飲食は中止して頂いております。

集団説明会や茶話会は中止とし、YouTube を使用した動画配信としています。

現在のところはこのような対応ですが、方針の変更があればその都度、HP 等で更新の手続きを行っております。

今年の生殖看護学会は大阪開催で楽しみにしていましたが、来年に延期になり、とても残念ですが致し方ないですね。

まだまだ不安な日々ですが、患者様のためにも感染に留意し体調第一で困難を乗り越えましょう。

* IVF 大阪クリニックのホームページ

ニュース&トピックス . <https://www.ivfosaka.com/news>



COVID-19感染拡大防止のための当院の工夫（2）

かんとくクリニック
不妊症看護認定看護師
阿部美喜
2020.5.14現在

令和初の新年を迎えたと同時に、私たちが襲ってきた新型コロナウイルス。想定外の未曾有の事態に世界が混乱し、日本でも3月の連休後からの爆発的感染、大変な年になってしまいました。

1月に中国から初めて新型ウィルスの報道がなされ、我々は、この見えない敵と戦うために、まずは「敵を知る」ことが始まりでした。症状は37.5℃以上の発熱が4日以上持続すると聞けば、毎朝スタッフの体温測定の実施。飛沫感染と分かり常時マスクの着用。アルコールに弱いと報道されれば、1日3回のアルコールによる院内の消毒…といった様に、これまでの標準予防策に加え出来ることから対応してきました。

当院は男性不妊治療の施設ですが、一般の泌尿器科の患者さんや外国の方も多数来院しております。COVID-19の感染で一番重症化しやすいのが高齢者という情報もあり、患者さん同士が院内の待合室に長時間一緒ににならないよう、患者さんの協力を得ながら診察時間を短くし、ソーシャルディスタンス保持のために、待合室の椅子に隣り合って座らないよう椅子に×印を付けました。スーパーやコンビニにおける感染防止対策は非常に早く、工夫もされており、私たちがそれらを参考に実施いたしました。

初期のころは、外国人の方、特に中国の方には来日してからの期間や、2週間以内に日本に渡航してきた知人に会っていないか、予約時に確認してから来院していただきました。日本国内に感染者が増えてきてからはクラスターとの関わりがないか、予約の時点で通称「コロナチェック」を実施し、予約前日には体調チェックとマスク着用の徹底のお願いのため、事務スタッフが時間を割いて、予約者ひとりひとりに電話連絡をするという水際対策も行いました。さらに来院時には、チェックシートの記入を全ての患者さん対象に実施しました。中には、これらの対応に不快感を露にする方もおりましたが、感染者数が増えてきてからは「ここまでしていただけて安心です。」という言葉も頂いております。

宮城では、4月29日以降感染者は出ておらず、5月7日から休業要請も解除となっております。それでも仙台市中心部への人の出入りはまばらで、活気はありません。全国的な緊急事態宣言も続いており、まだまだ油断できない現状ですが、引き続きひとりひとりが危機意識をもって行動すれば、新型コロナとの戦いにも終わりが見えてくるかもしれません。

今年の生殖看護学会は延期されるとのこと…、大変残念ですがここはグッと堪え、頑張っぺ、日本！

COVID-19感染拡大防止のための当院の工夫（3）

神谷レディースクリニック
不妊症看護認定看護師
太田有美
2020.5.15現在

先日、緊急事態宣言が解除されましたが、まだまだ安心できない状態が続いております。皆様も大変ご苦労されていることと思います。

札幌に関しては、病院や介護施設等での感染拡大が続いていましたが、やや感染者が減少傾向となってきました。当院においても感染予防対策を講じ、外来診療体制を変更、職員の時短勤務などを行い診療を継続しております。

患者様も日々不安の中、通院に迷いながらも、診療を継続してくれて良かったですと言ってくださっており、私たちの奮闘する力になっています。

当院で取り組んでいる内容になります。

- ・【新型コロナウイルスに係る当院の方針とお願い】ホームページ等に掲載しています。当院のホームページをご参照ください。
 - ・患者様の3密（密集・密閉・密接）への対策として、昼の休診時間を無くし、7：30～16：30まで通して診療を行い、患者様が分散して予約が取れるようにしています。
 - ・集団で行う教室関係は中止し、ART説明会は動画配信と資料配布とし、動画視聴済みに関する同意書を受領してから治療開始としている。
 - ・採卵や胚移植対象患者様へは、事前に感染の疑いがある場合には治療を中断させて頂くことをお伝えしている。
 - ・対面式でのカウンセリングは中止し、心理カウンセリングについてはオンラインを導入。
 - ・採精室の利用を一部制限、キッズルームのおもちゃを撤去、雑誌の撤去、待合のウォーターサーバー・給茶機を使用不可、患者様用PCの使用不可。
 - ・院内の手指アルコール消毒の設置を増やす。接触場所のアルコール清掃。
 - ・待合室の換気強化のため数カ所の窓を開放。院内スタッフ側の通路の開放。
 - ・受付、診察室、処置室、面接室、採血コーナ、カウンセリールーム等、患者様と対面する場所にビニールを設置。
 - ・採卵・胚移植・OP患者の検温
 - ・NS個室対応は妻のみで夫の入室は制限
 - ・患者説明等に対応可能なものは対面ではなく、院内PHSの使用やタブレット説明を実施
- また、スタッフへの注意喚起では
- ・出勤前の検温
 - ・密集を回避するためスタッフルームの座席数を減らす、昼食時の会話厳禁、時短勤務としAMのみ勤務、PMのみ勤務と別れて出勤。

北海道は緊急事態宣言が解除されていませんので、引き続き気を引き締めて感染予防、円滑かつ丁寧な患者対応に努めていきたいと思っております。

緊張をなかなか緩められない日々が続きますが、また学会等でお会い出来る日を待ち望みながら頑張っていこうと思います。

* 神谷レディースクリニック 新型コロナ関連のホームページ
<https://kamiyacinic.com/category/新型コロナ関連/>



周産期施設における感染対策

北里大学病院 産科病棟 遊佐浩子

当院では、2020年4月上旬に、新型コロナウイルスに感染した妊婦さんが出産し、新生児は感染しておらず、母体もその後の検査で陰性となり母子ともに無事に退院したケースを経験しました。国内初の新型コロナウイルスに感染した妊婦の出産でした。コロナウイルスの感染経路は、接触感染と飛沫感染ですが咳によるエアロゾルの発生が想定されることから空気感染の防護対策も実施し、N95マスク、サージカルマスク、フェイスシールド、キャップ、ガウン、手袋装着のフル装備対応でした。

感染した母体の分娩様式については妊娠週数、母体の感染症状、胎児状況を考慮して決定されますが、当時のガイドラインでは原則帝王切開であり、今回のケースではその他の条件もありましたが帝王切開術での分娩となりました。新型コロナウイルス感染母体に対応するために準備していた陰圧管理のできる手術室での出産となりました。母体は感染症病棟で、新生児は産科病棟で管理しました。

母は軽症ではなく、母子分離を余儀なくされました。母乳のPCR検査で陰性を確認しましたが、治療のために投薬を受けていたために母乳の投与はできませんでした。分泌維持のため搾乳を継続し、投薬を終了してPCR検査結果陰性を2回確認できてからは投与可能としました。

新生児は、正期産の週数相応体重児で元気であったため閉鎖式保育器に収容し個室で管理、フル防護で対応しました。PCR検査で日齢0と日齢1、日齢4の3回で陰性を確認したあと、フル装備対応から標準予防策に変更しコット移床しました。個室隔離の解除も可能でしたが、潜伏期間が最長14日間であることから生後14日までは個室管理としていました。保清については、PCR検査で陰性が確認できるまでは清拭とし、沐浴は陰性が確認できてから実施しました。

母は、2回目の陰性を確認できた翌日産科病棟に転棟し、母子同室を開始して育児手技を習得してから母子ともに退院されました。

周産期の感染対策において主に考えなくてはならないのは、母子の垂直感染と家族等による水平感染の二つです。感染症の感染経路には「垂直感染」と「水平感染」の2種類があり、垂直感染はおもに母子感染を指し、「胎内感染」「産道感染」「経母乳感染」などがあります。水平感染は固体から個体への感染源から周囲に広がる感染です。

垂直感染については、字数の都合でここでは割愛しますが、水平感染は、接触感染、飛沫感染、空気感染、媒介物感染の4つに大きく分類することができます。入院してきた産婦の上の子どもや家族が水痘、麻疹、風疹など罹患しており濃厚接触者となる場合などは、症状の有無や最終接触日時を聴取し潜伏期間を考慮し、感染経路に応じた予防策を実施する必要があります。

周産期施設では、産婦だけでなく妊婦も入院しています。妊娠時期によっては罹患することで胎児へ悪い影響がある感染症もあり、それらの院内感染は避けなければなりません。また、新生児が罹患すると重篤な症状を呈したり、障害を残すような影響を与える感染症もあり、同様に防がなくてはなりません。

スタッフ全員が、感染経路別予防対策を理解し適切な感染予防対策を実施できるための教育とマニュアルの整備とその周知が感染対策の要となります。

ポストコース延期のお知らせ

教育推進委員会

今年度の学術集会在延期になりました。それに伴い、学術集会の前日に実施を予定しておりましたポストコースも延期いたします。皆様と共に研鑽の機会にしたいと準備してまいりましたので、大変残念に思います。

現在の状況を作り出している新型コロナウイルス感染症の猛威の第1波は、落ち着きつつありますが、第2波、第3波が予想されており、当面は集会による研修は見込めないと考えられます。

現在、《集会によらない研修や情報交換の場の検討》など別の形態を模索し皆様と連携していけるように活動していきたいと考えています。企画ができましたら日本生殖看護学会ホームページでご案内いたします。

生殖看護に携わる皆様の活動の中に、看護の叡智があると考えています。是非、実践報告や現状の中での悩みやご意見等、匿名でも構いませんので下記までお寄せください。

連絡先 mail : jsfn.edu@gmail.com



理事会報告



第2回理事会（書面）

日時：2020年3月6日（金）

場所：書面による。

【報告事項】

1. 第18回日本生殖看護学会学術集会の進捗状況と一般演題抄録原稿査読依頼。
2. 広報委員会：広報委員会活動計画およびニュースレター発行計画。

3. 実践開発委員会：CN メーリングリスト登録。
4. 将来検討委員会、健やか親子 WG：研究助成申請の状況、研究支援相談会開催予定、健やか親子21サロン出席。
5. 総務：会員管理、ホームページ管理等。
6. その他：次々期学術集会長推薦について。

【審議事項】

1. 入会審査：3名の入会を承認。

事務局からのお知らせ

1. 新型コロナウイルス感染症の発生状況により、皆様のご家庭や勤務先への影響が大きいことと推察いたします。当学会事業に関しましても、変更等がありましたら、その都度、ホームページ等を通じ、ご連絡申し上げます。
2. 第18回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。
3. 日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mailで、気軽にご連絡ください。
4. 学会の年会費は8,000円です。会費納入は事業運用上、できるだけお早めにお問い合わせをお願いします。
5. 異動・転居された方は必ず事務局までお知らせください。住所・勤務先変更届はホームページからダウンロードできます。宛先不明ですと、ニュースレター、学会誌をお届けすることができませんので、ご協力をお願い申し上げます。
6. 会員数354名（2020年2月27日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒152-8558 東京都目黒区東が丘2-5-1

東京医療保健大学内 朝澤宛

TEL 03-5779-5032（内線216）

E-mail: jsfn@thcu.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333413

加入者名：日本生殖看護学会

●次号の原稿締切日

ニュースレター第57号の原稿締切日は、2020年9月28日（月）を予定しています。

会員の皆様にお知らせしたい情報などがございましたら、広報委員会（jsfn.koho@gmail.com）までご連絡ください。

◆編集後記

今号は特集記事として不妊症看護認定看護師の皆様のご所属施設における COVID-19対策を掲載させていただきました。情報をご提供くださいました皆様に心より感謝申し上げます。COVID-19対策は長期的に実施していく必要があり、今後、フェーズの移行に伴う対策の変更もあるかと思えます。本ニュースレターを情報交換、情報共有の場として活用していただければと考えております。引き続き会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。